

4/15

女性農業委員が市長を表敬

4 月に東京で開催された全国農業会議所主催の「全国情報会議」に、大村市から2人の女性農業委員が参加し、その成果を市長に報告しました。

これは女性を生かした農業・農村の活性化を目指し、県内外の委員とのネットワークづくりを図るために参加したもので、会議では、日本の農業情勢の報告や記念講演、優良活動に対する表彰などが行われ、充実した研修であったと報告がありました。

また、農業委員会だより全国コンクルの表彰式も行われ、大村市農業委員会が「全国農業新聞賞」を受賞し表彰されました。



4/24

市内幹線道路の整備促進を目指して

市内の幹線道路の整備促進を図るため、市や商工会議所など12団体で組織する「国道34号等大村市内幹線道路整備促進期成会」の総会を行いました。

総会では、慢性的な交通渋滞が発生している大村、諫早間の拡幅整備に向けて、市民と丸となった要望活動を行うことや、都市計画道路池田沖田線をはじめ、現在整備中の市内幹線道路の進捗状況、問題点などを確認しました。

同期成会では、今後も国道34号の渋滞緩和や幹線道路網の早期整備を目指して国や県に対して要望活動を行っていきます。



5/1

夜間初期診療センターをご利用ください

夜間における軽症患者の診療を行う「大村市夜間初期診療センター」の開所式を行いました。

これまで夜間の診療は二次・三次救急医療施設である大村市民病院と長崎医療センターが担っていましたが、軽症患者が安易に受診することで、入院や手術が必要な重症患者への対応に支障をきたすおそれがありました。

当センターの開設で、市内の初期・二次・三次救急医療体制が整い、今後は各機関の役割分担に応じた救急医療を行っていきます。市民の皆さまのご協力をお願いします。



世界の空に羽ばたく「長崎空港」

長崎コラム vol.22

皆さん、5月1日が何の日かご存知ですか？

実は、今から39年前の昭和50年5月1日に、長崎空港が世界初の本格的な海上空港として大村に開港しました。

若い人たちは「存しないでしょうが、今の長崎空港の大部分は、箕島町という大村湾に浮かぶ、全部で13世帯の小さな島でした。スイカや大根の栽培など農業を中心に市民が生活しておられました。

今思えば「箕島に空港を」という発想の奇抜さに驚いた記憶があります。当時市長だった亡き父の話によれば、当時の県知事であった、故久保勘一さん(前五島市長の中尾郁子さんの父)が自ら島民の皆さんの説得に当たり、粘り強い交渉と島民の皆さんの深い理解で長崎空港が誕生したそうです。

現在大村に住んでいる私たち市民は、空港があるのは当然と思いますが、全国的に見れば空港を持つ自治体は限られています。そして何より、空港を核とした高速交通網が整備された本市は、長崎空港の開港を契機に大きく飛躍し、開港当時は約6万1,000人だった人口も今では約9万3,000人まで増加しました。

私の思い出は、平成2年9月に超音速旅客機「コンコルド」が長崎空港に飛来したことです。天正遣欧少年使節帰国400年祭のイベントの一環として、私が当時の運輸省事務次官と直接掛け合い、コンコルドの記念フライトが実現したのですが、当日は、長崎空港に2万人以上の見物客が集まり、大いに賑わいました。

また、長崎空港の利用者数は、近年増加傾向にあり、平成24年度は国内・国際線を合わせて年間約272万人が利用されています。

現在、九州管内で世界に向けたハブ空港(乗継や積み替えの拠点空港)としては福岡国際空港が有名ですが、都市部の中心にある空港より、騒音の問題も少なく滑走路の延長も可能な長崎空港がアジアに向けた日本の空の玄関口として24時間対応のハブ空港になるのも夢ではないと思います。

そうなる場合、一番の課題は空港のネーミングです。私は、長崎空港の名称と併せて「長崎大村湾空港」の愛称を使用した方がイメージがピンタリだと思いますが、皆さんはいかがでしょうか？